Japan Social Innovation and Investment Foundation

# Impact Review 2023

SIIF
Social Innovation
and Investment Foundation

理事長メッセージ

# インパクト・エコノミー実現に向け、確かな歩みを進めています

## インパクト投資推進の中核的役割を果たす

2019年10月に「社会変革推進財団（SIIF）」としての新体制が発足してから、24年3月で4年半が経ちました。この間、日本におけるインパクト投資は大きな進展を見せています。

21年11月に金融機関21社で発足した「インパクト志向金融宣言」は、24年3月時点で署名機関69社・協力機関6社に達しました。民間主導のイニシアティブとして、世界にもほかに類を見ない、ユニークな試みといえるでしょう。SIIFはその事務局を担い、大きな役割を果たしてきました。

SIIFメンバーがインパクト投資推進の中核的存在として、公の組織や会議体への参加を要請される例も増えています。23年度は、経済産業省のインパクトスタートアップ育成支援プログラム「J Startup Impact」、内閣官房「インパクト投資とグローバルヘルス」に係る研究会、「新しい時代の公益法人制度の在り方に関する有識者会議」に、おのおの役職員が参画しました。

## システムチェンジを目指し実践に踏み出す

23年度は、前年に設定した3つの社会課題領域「機会格差」「地域活性化」「ヘルスケア」に対して実践に踏み出した1年でもありました。目指すのは、社会課題を生む構造そのものの改革、すなわち「システムチェンジ」です。

ヘルスケア分野では、6月にSIIFインパクトキャピタル株式会社（SIIFIC）とともに「SIIFIC ウェルネスファンド」を組成。すでに第2号の投資案件が決まっています。

10月には機会格差と地域活性化をテーマに「システムチェンジコレクティブ（SCC）事業」を立ち上げました。SIIFと一緒にシステムチェンジを探索してくれるパートナーを募ったところ、わずか1ヶ月で89件ものご応募をいただきました。日本にこれほど多くのインパクト・スタートアップが育ち、なおかつシステムチェンジに深い理解と関心を寄せてくれていることに、大きな喜びを感じます、グローバルに見ても、これほど実践的にシステムチェンジを目指す取り組みは珍しいですし、胸を張って先陣を切りたいと思います。

22年6月に発足した知識創造チーム、インパクト・エコノミー・ラボは、海外の有識者を交えた勉強会の主催や、国際会議への出席・登壇を通じて、グローバルな実践知のハブとして活動しています。GSG国内諮問委員会に設置された「インパクトIPOワーキンググループ」では事務局を務め、「インパクト企業の資本市場における情報開示及び対話のためのガイダンス 草案」の作成に携わりました。

## 日本から世界に知見を発信するステージへ

これまで日本のインパクト投資は、欧米に学び、欧米を追う段階にありました。しかし前述のように、インパクト志向宣言やSCC事業は欧米に先例のない取り組みです。私たちはこれから、世界に向けて自らの実践や知見を発信していく必要があります。地域活性化といった日本が先行する課題では、私たちの取り組みが、世界に資する参考事例になり得るかもしれません。

日本の金融資産は、富が偏る米国や中国と比べて遍く存在する一方、十分に活用されていない実態があります。これを、例えばクラウドファンディングのような手法でインパクトファイナンスに振り向ける仕組みは考えられないでしょうか。

システムチェンジという概念は新しいようで、実はかつて日本経済に組み込まれていた「三方よし」に近いのではないかと思います。企業と株主だけでなく、社員や地域社会の利益を追求する。米国証券界からの批判で株主資本主義に流れましたが、今や米国でも「ステークホルダーキャピタリズム」がいわれ始めています。

そう考えると日本にはすでに、世界のインパクト・エコノミーを牽引する潜在力があるのではないでしょうか。私たちSIIFはその力を引き出し、支援するために、たゆまぬ努力を続けます。今後とも、一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

一般財団法人
社会変革推進財団（SIIF）
理事長　大野修一

# SIIF Impact Review 2023

理事長メッセージ . . . . . 01
目 次 . . . . . 02
Vision / Mission / Value . . . . . 03
3 つの新しい戦略 / 注力する社会課題領域 . . . . . 04
SIIF 設立から 2023 年度までの軌跡 . . . . . 05
インパクト・エコノミーに向かう世界の潮流 . . . . . 07
国内のプレイヤーによるインパクト・エコノミー形成 . . . . . 08
2023 年度における主な業績 . . . . . 09
支援先一覧 . . . . . 11
組織概要 . . . . . 13
財務状況 . . . . . 14

# 社会の課題解決に

## インパクトとは、「未来への意志」

経済的な価値が重要視された時代は終わり、社会、環境、文化など、価値判断のモノサシが多様化している現代。私たちは企業、自治体、NPO 団体などとともに自助・公助・共助の枠組みを超えた社会的・経済的資源循環のエコシステムをつくるため、さまざまな事業を行っています。社会課題の解決と多様な価値創造が自律的・持続的に起こる社会を目指して、財団という、私たちの立場だからできることがあります。

### Vision

**社会課題解決と多様な価値創造が**
**自律的・持続的に起こる社会の礎をつくる**

SIIF が目指すのは、人や地域が「それぞれの幸せ」をかなえられる包摂的な社会です。それは、人や地域がそのあり方を自ら求め、選び、創造し続けるものと考えます。

### Mission

**社会的・経済的資源循環のエコシステムをつくる**

市場経済を中心とした自助、中央集権的な再分配システムに基づく公助、そして身近な助け合いの形である共助や互助。SIIF は、これらの枠組みを超えた資金・人材・知見などの資源の「新しい循環モデル」の構築を目指し、社会的な成果に対する多様な価値のモノサシを示していきます。

### Value

- **表層的な解決に留まらず、システムチェンジを追求する**
- **違いを受け入れ、摩擦を創造に変える**
- **本質を探求し、自ら行動する**

# 新しい経済で挑む

## 3つの新しい戦略（2022～2025年度）

**インパクト・エコノミー実現に向けたシステムチェンジの実践・知見の触媒**

| 01 | 02 | 03 |
|---|---|---|
| **事例・実績づくり** | **実践知づくり** | **場づくり** |
| 注力する社会課題領域において、実際に社会変革につながることを示すシンボリックな事例をつくる | 多様な実践から得られた学びを、「体系化した知見」として社会に示す | 新しい経済を志向する多様な実践者が、学び合える場をつくる |

## 注力する社会課題領域

3つの社会課題領域で具体的なシステムチェンジ、インパクトの創出を目指します。

# SIIF 設立から2023 年度までの軌跡

※2022 年度に策定した新戦略に基づいて、過去の事例も整理しました

| | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 |
|---|---|---|---|
| **01 事例・実績づくり** | • 神戸市・糖尿病性腎症重症化予防ソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)組成・出資<br>• 八王子市・大腸がん検診受診率向上事業 SIB へ 出資<br>• インパクト投資プラットフォーム・プラスソーシャルインベストメント株式会社へ出資 | • 岡山市・健康増進 SIB へ出資<br>• 広島県広域連携型大腸がん検診率向上 SIB へ出資 | • インパクトファンド「はたらく FUND」設立<br>• シングルマザー起業支援プログラムへ出資・参画<br>• 株式会社アドレスへ出資<br>• 豊中市・禁煙支援 SIB の組成・出資 |
| **02 実践知づくり** | • 未来投資会議などへ出席。政策提言、調査レポート発行、セミナー開催<br>• 社会的インパクト評価イニシアチブ（現：社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ /SIMI）の共同事務局として「ガイドライン」「アウトカム・指標ツールセット」等を策定<br>• GSG 国内諮問委員会（事務局：SIIF）「日本におけるインパクト投資の現状」市場報告書 年次発行開始 | • 神奈川県設立のヘルスケア・ニューフロンティア・ファンドで社会的インパクト評価の支援開始<br>• 「ヘルスケア・ニューフロンティア・ファンドインパクトレポート」年次発行開始<br>• 国際的インパクト投資推進団体 GIIN に加盟 | • 「インパクト投資の消費者意識調査」報告書 年次発行開始 |
| **03 場づくり** | • 「社会的インパクト投資フォーラム 2018」共催<br>• 中間支援組織向け SIB 研修実施<br>• 「Social Impact Day 2017」共催 | • GSG 国内諮問委員会（事務局：SIIF）にて G20 開発作業部会とインパクト投資の会合を実施<br>• 「ソーシャル・インパクト・ボンドセミナー 2018」主催<br>• 「Social Impact Day 2018」共催 | • GSG 国内諮問委員会（事務局：SIIF）インパクト投資拡大に向けた提言書」<br>• 「Social Impact Day 2019」共催 |

新戦略策定

| 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 |
|---|---|---|---|
| • 「日本財団ソーシャルチェンジメーカーズ」卒業生への支援事業<br>• 2019 年度休眠預金等活用制度「地域活性化ソーシャルビジネス成長支援事業」<br>• 新しい資源循環の仕組みづくりを研究開発する「ハルキゲニアラボ」実施<br>• ココホレジャパン株式会社へ出資 | • 株式会社ゼブラアンドカンパニーへ出資<br>• 2020 年度休眠預金等活用制度「コレクティブインパクトによる地域課題解決事業」 | • 2021 年度休眠預金等活用制度「地域インパクトファンド設立・運営支援事業」 | • SIIF インパクトキャピタル株式会社設立<br>• システムチェンジコレクティブ事業開始 |
| • Impact Frontiers 主催のインパクトマネジメント向上を目指す国際的ピアラーニングプログラムに日本から初参画 | • 「SIIF 休眠預金事業インパクトレポート」年次発行開始<br>• 「成果連動型契約（PFS）/ソーシャル・インパクト・ボンド（SIB）に関する研究会」報告書（21年度・22年度）<br>• 株式会社アドレスの「ADDress Impact Report vol. 1」発行支援 | • 「ヘルスケア・ニューフロンティア・ファンド インパクトレポート」で介護領域の課題分析の相関図を公開<br>• 「インパクトIPO実現・普及に向けた基礎調査」公開<br>• 「ベネフィットコーポレーション等に関する調査」公開 | • 「インパクト企業の資本市場における情報開示及び対話のためのガイダンス 草案」公開 GSG 国内諮問委員会（事務局: SIIF）<br>• ブログ連載「インパクト・エコノミーの扉」を開始<br>• インパクト・マネジメント運用原則に署名<br>• 機会格差、地域活性化、ヘルスケアの３領域のビジョンペーパーと VP ログを公開 |
| • GSG 本部主催のワーキンググループにアドバイザーと して参画<br>• GSG 国内諮問委員会・金融庁「インパクト投資に関する勉強会」共催（事務局：SIIF）<br>• 「Social Impact Day 2020」協力 | • 「休眠預金事業支援先合同セッション」主催 以降、毎年開催<br>• 「インパクト志向金融宣言」発足（事務局：SIIF）<br>• オルタナティブ事業「HALLUCIGENIA Fes 2022」主催<br>• 「Social Impact Day 2021」協力 | • 一般社団法人インパクトスタートアップ協会に加盟<br>• 機会格差、地域活性化、ヘルスケアの課題構造マップ公開 | • 「Social Impact Day 2023」共催<br>• システムチェンジ投資の勉強会「IMPACT INVESTING FOR SYSTEM CHANGE」主催<br>• インパクト志向金融宣言署名機関数 75 社 |

# インパクト・エコノミーに向かう世界の潮流

## インパクト投資からインパクト・エコノミーへ

インパクト投資は世界中で順調に拡大し、特に欧米では市場が一定の成熟を見せています。インパクト測定・マネジメントの実践を通じて投資手法も進化してきました。こうした積み重ねの中から生まれてきた動きが「インパクト・エコノミー」への関心の広がりです。投資家だけでなく、投資先の事業者、その先にいる消費者もインパクトを志向し、政府もそれを後押しする。経済活動全体にインパクト創出を促進する仕組みを組み込もうというものです。

インパクト投資の成長にもかかわらず、経済格差や気候変動といった社会・環境課題は深刻さを増す一方です。先年私たちが経験した新型コロナウイルスの世界的感染拡大は、社会における様々な不均衡をあぶり出しました。本当にインパクトを創出するためには、投資家個々がインパクトを志向するだけでは足りないのではないか。インパクト投資からインパクト・エコノミーへの拡張は、既存の金融・経済システム、ひいては社会構造そのものを変革する「システムチェンジ」を目指す動きでもあると考えられます。

## インパクトに関する情報開示が進展

インパクト・エコノミーに移行するための重要なファクターは、インパクトの可視化・情報開示です。国際会計基準（IFRS）財団傘下の International Sustainability Standards Board（ISSB）は 2023 年 6 月、サステナビリティ開示基準 S1・S2 を公表しました。S1 はサステナビリティに関するリスクと機会に関する開示事項で、リスクはネガティブな、機会はポジティブなインパクトに重なる部分もあると考えられます。S2 は気候変動に関する開示事項です。

これに先立つ 23 年 1 月、EU では CSRD（Corporate Sustainability Reporting Directive）が発効しました。これにより、サステナビリティに関する企業の報告義務が拡大しただけでなく、企業活動が環境や社会に与えるインパクトについての開示も求められることになります。英国においても、同様の動きが見られます。

これらを受けて日本国内でも、国際基準に準拠したサステナビリティ情報開示に向けて議論が始まっています。23 年 11 月に発足した官民連携のインパクトコンソーシアムでもインパクトデータが議題の 1 つになっています。

## 地域に根ざしたインパクト投資の拡大

もう 1 つの大きな動きは「地域に根ざしたインパクト投資」の拡大です。こちらは世界各国・各地域で同時多発的に起きているものです。

例えば英国では、地域ごとに関係者が協働し、地域の課題解決に特化した投資を生みだすプロジェクトが進んでいます。資金提供者に自治体の年金基金が組み込まれている点も注目に値します。インパクト・エコノミーにおいてアセットオーナーは重要ですし、地域課題はインパクトと財務リターンの両立を明確化しやすい投資テーマといえるかもしれません。

米国はもともとコミュニティ投資が活発ですが、今年は気候変動対策に取り組む地域の中間支援組織に対し、連邦政府が巨額の資金を提供するとの発表がありました。

こうした各国の動きは、今後、日本で地域経済を維持・発展させるための施策や投資手法を考えるヒントになるはずです。また、日本が先行する地域課題への取り組みを、世界の参照事例にすることもできるでしょう。

## 個々の課題解決からシステムチェンジ志向へ

インパクト投資を推進してきた投資家たちは今、「システムチェンジ投資」の追求を始めています。23 年度には投資家や研究者が集まって知見を交換する国際ネットワーク「TWIST」が立ち上がりました。24 年 1 月に MIT で開催されたシステムチェンジ投資の国際会議には予想を超えて多くの投資家が集まり、その活発な議論に黎明期の熱気を感じました。

投資家や金融機関のシステムチェンジ志向、国際社会におけるサステナビリティ基準の強化、こうした動きが相まって、インパクト・エコノミーに向けた大きなうねりが巻き起こりつつあります。

インパクト・エコノミー・ラボ
所長　菅野文美

# 国内のプレイヤーによるインパクト・エコノミーの形成

世界的なインパクト・エコノミーの潮流を踏まえ、日本経済における各プレイヤーの主な動向を下図にまとめました。おのおのに、社会・環境をより良くする、インパクトへの志向が表れています。SIIF では、GSG（The Global Steering Group for Impact Investment）会長ロナルド・コーエン卿による「インパクト・エコノミー」の定義と照らし合わせ、これらの動向をインパクト・エコノミーの形成と位置付けています。

### インパクト・エコノミーとは？

社会及び環境インパクトの測定（・マネジメント）が、あらゆる経済活動に統合され、
政府・ビジネス・投資・消費における意思決定の中心にあること ―― by Sir Ronald Cohen

| プレイヤー | これまでの主な動き | SIIF の関与 |
|---|---|---|
| **政府**<br>インパクト推進を基本方針に掲げる | インパクト投資及びインパクトスタートアップ企業の推進が骨太方針に明記（'23 年年 6 月） | |
| | 金融庁・経済産業省・内閣官房<br>関連有識者会議の発足 | 有識者委員として参画 |
| | 金融庁<br>インパクトコンソーシアムの発足（'23 年 11 月） | 運営委員・分科会副座長として参画 |
| | 経済産業省<br>J Startup impact（'23 年 7 月） | 選定委員として参画 |
| **投資家・金融機関**<br>インパクト投資の拡大及び担い手の多様化 | 日本における<br>インパクト投資残高：11 兆円超 | GSG 国内諮問委員会 事務局運営<br>「日本におけるインパクト投資の現状と課題 2023 年度」を調査・公開 |
| | インパクト志向金融宣言署名機関数：75 社（'24 年 3 月） | インパクト志向金融宣言 事務局運営 |
| **事業者**<br>インパクト・マネジメントの企業経営への統合、B Corp 企業、ゼブラ企業等、インパクト企業の増加 | B Corp 認証団体 B Market Builder Japanの発足（'24 年 3 月） | オフィシャルサポーターとして参画 |
| | インパクトスタートアップ協会の発足（'22 年秋） | 賛同会員として参画 |
| **消費者**<br>個人消費者としてのサステナビリティ、インパクトに基づく意思決定の端緒 | 一般消費者のインパクト認知度：7%（'22 年 10 月） | 「インパクト投資に関する消費者意識調査」 |
| | インパクト消費やインパクトキャリアに関する情報 | SIIF note における発信 |

# 2023年度における主な業績

## 01 事例・実績づくり

注力する社会課題領域において、実際に社会変革につながることを示すシンボリックな事例をつくる

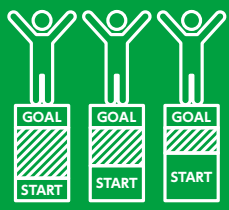
### インパクトKPI※1 設定
**46社 / 47社**

### インパクトKPI※1 の出資者への開示
**43社 / 47社**

## 02 実践知づくり

多様な実践から得られた学びを「体系化した知見」として社会に示す

### 注力する社会課題領域 3テーマ




機会格差

地域活性化

ヘルスケア

### ビジョンペーパー・VPログ発行

## 03 場づくり

新しい経済を志向する多様な実践者が、学び合える場をつくる

### ― 海外との接続 ―

「Oxford Social Finance Programme」登壇
インパクト投資やシステムチェンジ等のイベント、勉強会への参加
**30件以上**

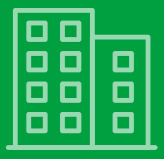
※1「日本におけるインパクト投資の現状と課題 2023」のインパクト投資の要件に倣い、アウトプット、及びアウトカムをインパクト KPI をする
※2 分科会、セミナー含む

インパクトに関する
第三者機関
による検証

**2** ファンド

2023年度
新規支援先

**6** 社



伴走支援
提供社数

**33** 社
**47** 社

政府主催会合・
委員会への貢献

**7** 件

GSG 国内諮問委員会
インパクト IPO ワーキング

「 インパクト企業の
資本市場における
情報開示及び
対話のための
ガイダンス 草案 」
公開

調査研究

インパクト投資の
現状と課題

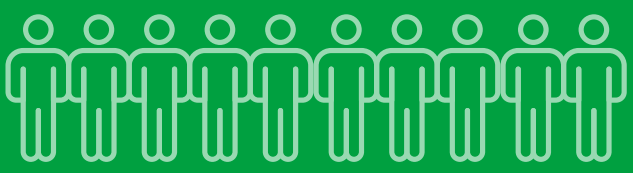
個人投資家の
調査

システムチェンジに関する
勉強会・イベント開催件数

**7** 件

インパクト志向金融宣言開催
学びの場 参加延べ人数

**1,430** 人以上 ※2



# 支援先一覧

| | |
|---|---|
| アイリス株式会社 *1 | 株式会社 CureApp *2 |
| 特定非営利活動法人<br>空家・空地活用サポート SAGA | ココホレジャパン株式会社 |
| アドリアカイム株式会社 *1 | 株式会社 Compass *2 |
| 株式会社アドレス | ジェイファーマ株式会社 *4 |
| 株式会社 Antway *2 | JOINS 株式会社 *3 |
| 株式会社うむさんラボ | シングルマザー起業支援 |
| エーテンラボ株式会社 | 株式会社助太刀 *2 |
| エール株式会社 *2 | スケッター<br>(株式会社プラスロボ) *1 |
| 株式会社エピグノ *1 | スタンドバイ株式会社 *3 |
| ORTHOREBIRTH 株式会社 *4 | 株式会社<br>スマートホスピタル *1 |
| カイテク株式会社 *2 | 株式会社<br>ゼブラアンドカンパニー |
| 株式会社キズキ *3 | 特定非営利活動法人<br>但馬を結んで育つ会 |
| 株式会社キャピタルメディカ・<br>ベンチャーズ | 一般財団法人 地域・教育<br>魅力化プラットフォーム*3 |

Trim 株式会社 *1

株式会社 HACARUS *1

BPO テクノロジー株式会社 *2

一般社団法人 東の食の会

株式会社ヒューマンアルバ *1

株式会社ファーマクラウド *1

プラスソーシャル
インベストメント株式会社

株式会社 ヘラルボニー

特定非営利活動法人
ホームスタート・ジャパン *3

株式会社
MITAS Medical *1

ユニファ株式会社 *2

Ubie 株式会社 *2

特定非営利活動法人
Learning for All *3

ライフイズテック
株式会社 *2

株式会社 Ridilover *3

Rennovater
株式会社 *3

株式会社
Rehab for JAPAN *1

株式会社
Lily MedTech *1

株式会社 Linc *2

株式会社 Rhelixa *1

株式会社ワンライフ *1

*1 ヘルスケア・ニューフロンティア・ファンドを介して、インパクト測定・マネジメントを提供しています　*2 はたらくFUND を介して、資金及びインパクト測定・マネジメントを提供しています　*3 日本ベンチャーフィランソロピー基金を介して、資金及びインパクト測定・マネジメントを提供しています　*4 SIIFインパクトキャピタルを介して、資金及びインパクト測定・マネジメントを提供しています

# 組織概要

※組織概要ならびに役員などは 2024 年 3 月 31 日現在のものです

| | |
|---|---|
| 団体名称 | 一般財団法人 社会変革推進財団<br>Japan Social Innovation and Investment Foundation (SIIF) |
| 住所 | 〒107-0052 東京都港区赤坂 1 丁目 11 番 28 号 6 階 |
| 設立年月 | 2018 年 9 月 |

SIIF
Social Innovation and Investment Foundation

**沿革**

**2013** 日本財団が、日本におけるインパクト投資普及のための調査研究を開始

**2014** 日本財団内に社会的投資推進室を発足し、G8 社会的インパクト投資タスクフォース(現 Global Steering Group for Impact Investment：GSG) に民間代表として日本財団が参画
日本財団が GSG 国内諮問委員会の事務局を務める

**2015** 横須賀市、尼崎市、福岡市などでソーシャル・インパクト・ボンド（SIB）のパイロット事業を実施

**2016** 社会的インパクト評価イニシアチブ ( 現 社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ：SIMI ) を発足し、事務局として参画

**2017** インパクト投資の市場構築に向けた取り組みを本格化させるため、一般財団法人社会的投資推進財団を設立
神戸市と八王子市で、ヘルスケア分野の SIB を日本で初めて本格導入

**2018** 神奈川県ヘルスケア・ニューフロンティア・ファンドへ参画

**2019** 新生企業投資、みずほ銀行と協働で、インパクト投資ファンドを設立・運営
一般財団法人社会変革推進機構と合併し、社会変革推進財団と改称
2019 年度休眠預金等活用制度の「地域活性化ソーシャルビジネス成長支援事業」の資金分配団体として採択される

**2020** 金融庁・GSG 国内諮問委員会（事務局：SIIF）が共催する「インパクト投資に関する勉強会」の隔月開催を開始
2020 年度休眠預金等活用制度の「コレクティブインパクトによる地域課題解決事業」の資金分配団体として採択される

**2021** 2021 年度休眠預金等活用制度の「地域インパクトファンド設立・運営支援事業」の資金分配団体として採択される
SIIF の発起により、「インパクト志向金融宣言」を発足。金融機関 21 社が署名。

**2022** インパクト IPO 実務的示唆と展望「インパクト IPO 実現・普及に向けた基礎調査」発行

**2023** システムチェンジの調査研究を開始。システムチェンジ投資の実装のために、ウェルネス領域のインパクトファンドを設立。
機会格差、地域活性化の構造的解決を目指すシステムチェンジコレクティブ事業を開始。

| | |
|---|---|
| 理事長 | 大野 修一 |
| 専務理事 | 青柳 光昌 |
| 常務理事 | 工藤 七子<br>髙石 良伸 |
| 理事 | 永田 俊一　[三菱 UFJ 信託銀行信託博物館長、元預金保険機構理事長]<br>有馬 充美　[元みずほ銀行執行役員、株式会社西武ホールディングス社外取締役] |
| 監事 | 五十嵐 裕美子 [五十嵐綜合法律事務所弁護士]<br>角野 里奈　[角野里奈公認会計士事務所所長、株式会社 ACCESSO 代表取締役] |
| 評議員 | 大田 弘子　[政策研究大学院大学長、日本生産性本部副会長]<br>尾形 武寿　[日本財団理事長]<br>北川 正恭　[早稲田大学名誉教授、早稲田大学マニフェスト研究所顧問]<br>柴田 弘之　[信金中央金庫理事長]<br>高橋 陽子　[日本フィランソロピー協会理事長]<br>樽見 弘紀　[北海学園大学名誉教授]<br>堀内 勉　[多摩大学サステナビリティ経営研究所教授・所長、100 年企業戦略研究所所長、株式会社ボルテックス取締役会長] |
| アドバイザリー委員 | 杉田 亮毅　[日本経済新聞社参与、日本経済研究センター参与]<br>高木 剛　[日本労働組合総連合会顧問]<br>田中 明彦　[独立行政法人国際協力機構（JICA）理事長]<br>丹呉 泰健　[日本たばこ産業株式会社社友、元財務事務次官]<br>中江 有里　[女優、作家]<br>二橋 正弘　[自治総合センター会長、元内閣官房副長官]<br>磯崎 功典 |
| 顧問 | 坂東 眞理子　[学校法人昭和女子大学総長]<br>水口 剛　[高崎経済大学学長] |

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION
※当財団の事業は日本財団の助成を受けて実施しています

# 財務状況

## 正味財産増減計算書

（単位：円）

### Ⅰ 一般正味財産増減の部

#### 1. 経常増減の部

（1）経常収益

| | |
|---|---|
| 経常収益計 | 655,530,877 |

（2）経常費用

| | |
|---|---|
| 事業費計 | 534,970,503 |
| 管理費計 | 108,470,387 |
| 経常費用計 | 643,440,890 |
| 評価損益等調整前当期経常増減額 | 12,089,987 |
| 当期経常増減額 | 12,089,987 |

#### 2. 経常外増減の部

（1）経常外収益

| | |
|---|---|
| 経常外収益計 | 0 |

（2）経常外費用

| | |
|---|---|
| 経常外費用計 | 89,811 |
| 当期経常外増減額 | △ 89,811 |
| 税引前当期一般正味財産増減額 | 12,000,176 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 70,000 |
| 当期一般正味財産増減額 | 11,930,176 |
| 一般正味財産期首残高 | 100,495,673 |
| 一般正味財産期末残高 | 112,425,849 |

### Ⅱ 指定正味財産増減の部

| | |
|---|---|
| 休眠預金等交付金 | 91,243,184 |
| 受取民間助成金 | 357,592,000 |
| 受取補助金等計 | 448,835,184 |
| 受取支援金 | 0 |
| 特定資産評価損益等 | △ 15,090,230 |
| 一般正味財産への振替額 | |
| 一般正味財産への振替額 | △620,994,810 |
| 当期指定正味財産増減額 | △187,249,856 |
| 指定正味財産期首残高 | 2,203,660,393 |
| 指定正味財産期末残高 | 2,016,410,537 |

### Ⅲ 正味財産期末残高

2,128,836,386

2023年4月1日から2024年3月31日まで

## 貸借対照表

（単位：円）

### Ⅰ 資産の部

#### 1. 流動資産

| | |
|---|---|
| 流動資産合計 | 157,585,071 |

#### 2. 固定資産

（1）基本財産

| | |
|---|---|
| 基本財産合計 | 10,000,000 |

（2）特定資産

| | |
|---|---|
| 事業運営平衡基金 | 30,000,762 |
| 社会変革推進事業基金 | 675,354,115 |
| 社会変革事業資産 | 241,830,920 |
| 休眠預金事業資産 | 185,190,726 |
| ジャパンベンチャーフィランソロピー基金 | 155,101,000 |
| 基金等準備金 | 40,612,000 |
| 有価証券 | 660,866,287 |
| 退職給付引当資産 | 23,088,000 |
| 什器備品 | 628,335 |
| 建物付属設備 | 7,553,129 |
| 敷金 | 27,156,480 |
| 特定資産合計 | 2,047,381,754 |
| 固定資産合計 | 2,057,381,754 |
| 資産合計 | 2,214,966,825 |

### Ⅱ負債の部

| | |
|---|---|
| 流動負債合計 | 63,042,439 |
| 固定負債合計 | 23,088,000 |
| 負債合計 | 86,130,439 |

### Ⅲ 正味財産の部

#### 1. 指定正味財産

| | |
|---|---|
| 休眠預金等交付金 | 142,317,509 |
| 民間助成金 | 1,538,599,921 |
| 支援金 | 330,295,000 |
| 有価証券評価損益 | 5,198,107 |
| 指定正味財産合計 | 2,016,410,537 |
| 一般正味財産 | 112,425,849 |
| 正味財産合計 | 2,128,836,386 |
| 負債及び正味財産合計 | 2,214,966,825 |

2024年3月31日現在

一般財団法人 社会変革推進財団
Japan Social Innovation and Investment Foundation (SIIF)

〒107-0052 東京都港区赤坂 1 丁目 11 番 28 号 6 階
TEL 03-6229-2622 | FAX 03-6229-2621 | MAIL info@siif.or.jp
https://www.siif.or.jp